

つま恋 名称残し一括譲渡

ヤマハ、HMI合意

全ての事業を継続

ヤマハは27日、一般営業を25日で終了した掛川市満水の「ヤマハリゾートつま恋」の不動産と商標の譲渡について、ホテルマナージメントインターナショナル（HMIホテルグループ、本社・神戸市）と基本合意を締結した。譲渡予定は2017年3月31日。HMIは4月1日から、「つま恋」の名称を引き継ぎ、「つま恋リゾート」彩の郷（さいのきょう）として営業を始める。

＝関連記事31面へ

ヤマハによると、譲渡する資産は「つま恋」ふ土地、宿泊・飲食・温泉入浴・スポーツ施設などの建物。売却額は未定で、「金額面を含め、これから具体的な交渉に入る」（広報部）という。基本合意段階では、HMIはつま恋の全ての事業を継続するほか、掛川市が目指す20年東京五輪などのキャンプ誘致や掛川・新茶マラソン、ジュービロ警田サッカー学校の設

泊客はファミリー層が中心だったが、価格を抑えながら「海外からの訪日旅行者や国内企業の研修など利用客層の拡大を図る」（同社）という。

中田卓也ヤマハ社長の話「つま恋」ブランドと、施設全体の継続を前提に譲渡の基本合意を結ぶことができた。詳細の交渉はこれからだが、お客さまに愛され続け、地域にも喜ばれる形で資産を引き継いでいただきた

品企画を進める。HMIは新たな事業計画を2月下旬までに策定する。宿泊施設なものは修繕、改修して活用する方針。近年の宿



ホテルマナージメントインターナショナルへの譲渡で基本合意したヤマハリゾートつま恋。9月、掛川市満水（本社ヘリ「ジェリコ1号」から）

Q HMIホテルグループは1998年に設立したホテル運営会社で、正式名称は「ホテルマナージメントインターナショナル」。神戸市に本社を置き、ホテルや旅館、スポーツ施設などを全国50カ所以上で展開する。経営不振に陥ったホテルを再建する目的で積極的に投資してきた。2014年2月には、会社更生法の適用を受けた企業からグランドホテル浜松（浜松市）を引き継いだ。このほか県内でホテルクラウンパレス浜松（同、旧浜松名鉄ホテル）、ホテルラヴィエ川良（伊東市）、大仙家（伊豆の国市）を運営する。

満額回答、地元へ安堵

「慕われた施設」価値痛感

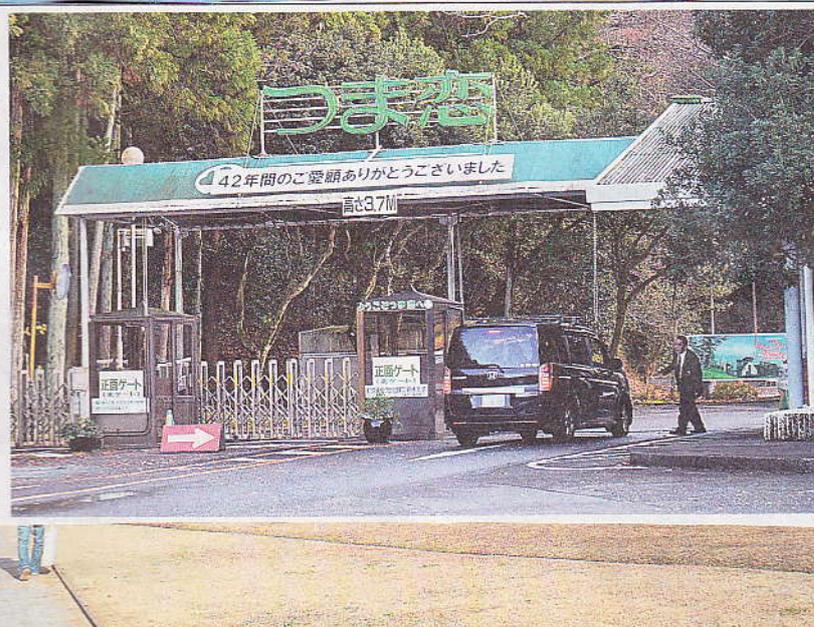
積極活用、応援決意

つま恋

再出発

《上》

「待ち望んでいた報告。大変うれしく思う」と、ヤマハリゾナル(HMIホテルグループ)つま恋(掛川市満水)のホテルマネージャー、大塚元樹は、9月25日、掛川市満水にあるつま恋の入り口で、地元関係者らと面談した。この日は、地元関係者らと面談した。この日は、地元関係者らと面談した。



HMIが再建に乗り出すつま恋。集客力アップに向け地元の支援、活用策も問われる=25日、掛川市満水

本合意が成立した27日、報道陣の取材に応じた松井三郎市長は開口一番で喜びを語った。

市の発展の一翼を担ってきたつま恋。9月にヤマハが一般営業の終了を発表して以降、

「フォークソングの聖地」「スポーツ拠点」としての足跡に光が当たり、地元は改めてその価値の大きさを痛感させられた。

市中心部の商業関係者らでつくる掛川おかみさん会の山本和子会長(56)は「慣れ親しんだ地元企業のヤマハから(主体が)変わることに一抹のさみしさはある」と話しながらも、「閉鎖になればイメージの悪化につながる。間を置かずに運営されるのはよかった」と胸をなで下ろした。

安堵(あんど)感が広がる一方で、「本当に大切なのはこれから」という声も上がる。掛川商工会議所の鈴木俊光会頭(66)は「取引業者もあり、地元経済にとって影響の大きい施設。全国から人が訪れるように集客力を高めてもらいたい」と述べた上で、「市内の産業界を挙げて(HMI)の運営を」応援するような態勢をとりたい」と意気込む。

掛川観光協会の平野正俊会長(62)は「あるのが当たり前になっていた」と長い時間の中でつま恋と地元の関係が希薄になっていったとの感覚を抱く。一連の問題で「たくさんの方に愛され、慕われた施設だったことを思い知らされた」とも。地元がHMIと連携して「素晴らしい資源をこれまで以上に積極的に活用するべき」と訴え、つま恋再生のためには「市民も緊張感を持たないといけない」と言葉に力を込めた。

「素晴らしい資源をこころみ、これまで以上に積極的に活用するべき」と訴え、つま恋再生のためには「市民も緊張感を持たないといけない」とコメントした。

「ヤマハリゾナル」の譲渡が基本合意したことについて、川勝平太知事は27日の定例記者会見で「HMIホテルグループの比良竜虎社長は日本を良く知る国際派で、素晴らしい人。いい形で継承できると喜んでくれる。これまで以上のつま恋になるのではないかと期待している」とコメントした。

「一般営業終了から2日。42年の歴史を刻んだ総合リゾート施設つま恋がHMIの下で新たな一歩を踏み出すことが決まった。地元の思いや展望を探った。いい形で継承

川勝知事

地域との連携鍵

客層拡大を検討

つま恋

再出発

《下》

「やり手だよ。期待 つま恋譲渡の基本合意 できるんじゃないの。」が成立した翌日の28

日、HMIの比良竜虎社長(68)を知る浜松市の企業経営者は、目を細めてこう語った。インド出身の比良社長が率いるHMIは、ホテルや旅館を全国52カ所で展開する。経営難の施設を取得し、再建する手法で規模を拡大。2014年には、約58億円の負債を抱えて破綻した同市中区の老舗「グランドホテル浜松」の承継を決め、再生に踏み出した。

「浜松の迎賓館を存続させてほしい」と地元関係者の要請を受けた背景もあるが、比良社長が引き受ける条件として重んじたのが地域の協力態勢だ。たとえられる。約30億円を投じるホテル改修計画の提案とともに、地元企業などの積極的な利用を呼び掛けた。再出発の門出を祝うパーティーでは、日本とインドの親善を図る日印協会会長の森喜朗元首相、川勝平太知事をゲストに迎え、「地域の名声と発展に貢献したい」と強調した。

つま恋の再生でも、HMIは地域との関係重視の姿勢を明確に打ち出している。地元掛川市が目指す19年ラグビーワールドカップや翌20年東京五輪のキャンプ誘致などに協力する考えだ。基本合意段階では、HMIはつま恋の全ての事業を継続する方向だが、音楽関連分野など未知数な部分もある。来年2月下旬に具体的な事業、整備計画をまとめるという。一方、再生実績を持つ宿泊部門などに関し、利用客層の拡大をまとめるという。

掛川・新茶マラソン実行委員会は28日正午から、インターネットを通じて2017年4月9日の第12回大会のエントリーの受け付けを始める。フルマラソン(42・195キロ、参加料6千円)のほか5種目を行う予定。種目ごと定員に達した時点で締め切る。フルマラソンは新緑が芽吹く市内の各地を、フルーツや戦国汁のもてなしを楽しみながら駆け抜ける。インターネットでのエントリーは「RUNTES」(<http://runnet.jp>)で2017年2月27日まで。振替用紙での応募もある。

掛川・新茶マラソン実行委員会は28日正午から、インターネットを通じて2017年4月9日の第12回大会のエントリーの受け付けを始める。フルマラソン(42・195キロ、参加料6千円)のほか5種目を行う予定。種目ごと定員に達した時点で締め切る。フルマラソンは新緑が芽吹く市内の各地を、フルーツや戦国汁のもてなしを楽しみながら駆け抜ける。インターネットでのエントリーは「RUNTES」(<http://runnet.jp>)で2017年2月27日まで。振替用紙での応募もある。

「お客さまの願いかなった」

HMIへの譲渡について、つま恋の関係者には27日午後の発表前に説明が行われた。ヤマハリゾートの安藤貞敏社長が施設名称の継続やアルバイトを含む従業員の再雇用などHMIの方針を伝えた。

25日の一般営業最終日に多くの利用者からつま恋の存続を望む声を聞いたというコンシエルジュの伊藤えつ子さん(61)は、「お客さまの願いがかなったことで安心して」と穏やかな表情。自身は退職を決意しているが、「次につま恋に来るときに(今の)スタ



ヤマハリゾート企画広報担当部長の堀内章弘さん(58)は「ほかにはない素晴らしい自然と施設をしっかり継承していただき、これからも訪れる皆さんが楽しく、幸せな場所であれば」と話した。

掛川・新茶マラソン 開催決定

掛川市の掛川・新茶マラソン実行委員会は27日夜、同市内で会合を開いた。メイン会場

一層注力していく」との方針を示した。会合では大会会長の松井三郎市長が冒頭で経緯を説明。「準備期間は短い、開催できるようにぜひみなさんの決断と協力をお願いしたい」と語り、全会一致で承認した。

掛川・新茶マラソン実行委員会は27日夜、同市内で会合を開いた。メイン会場

HMIは基本合意の発表の中で、新茶マラソンなど、つま恋を舞台にしてきたイベントに「地域の皆さまの交流の場として、